



児童・生徒のタブレット・パソコンを利用した 「授業への感想」による類型化の試み

- 水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
吉良 文夫 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

目的

GIGAスクール構想が本格化し、一人一台タブレット・パソコンを貸与されている。



児童・生徒のタブレット・パソコンを利用した授業への態度・感想を基に
類型化を行い、各クラスタの特性を明らかにする

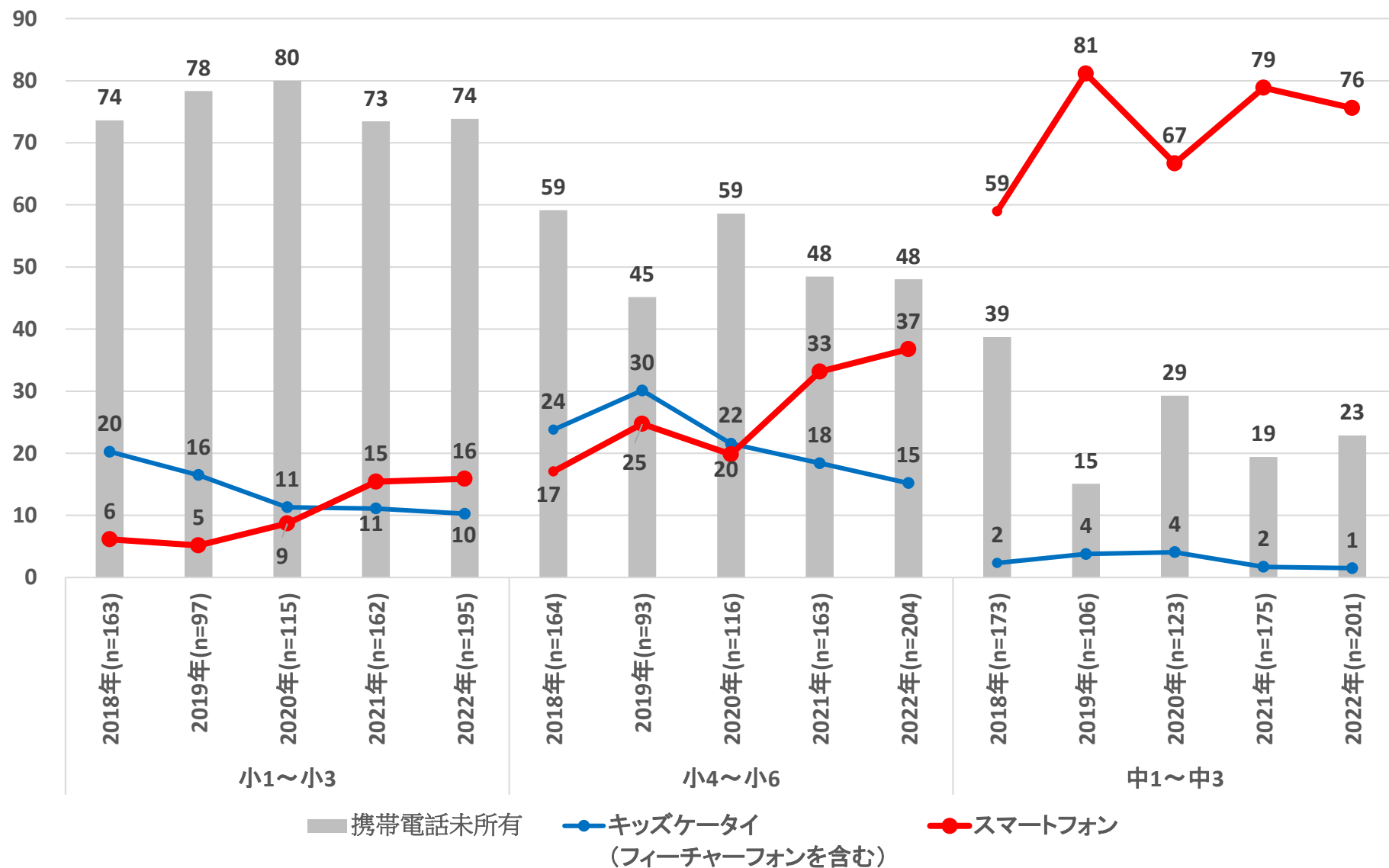
調査概要

調査時期	2022.10
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県 小中学生の親子
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・都市規模で割付
サンプル数	600

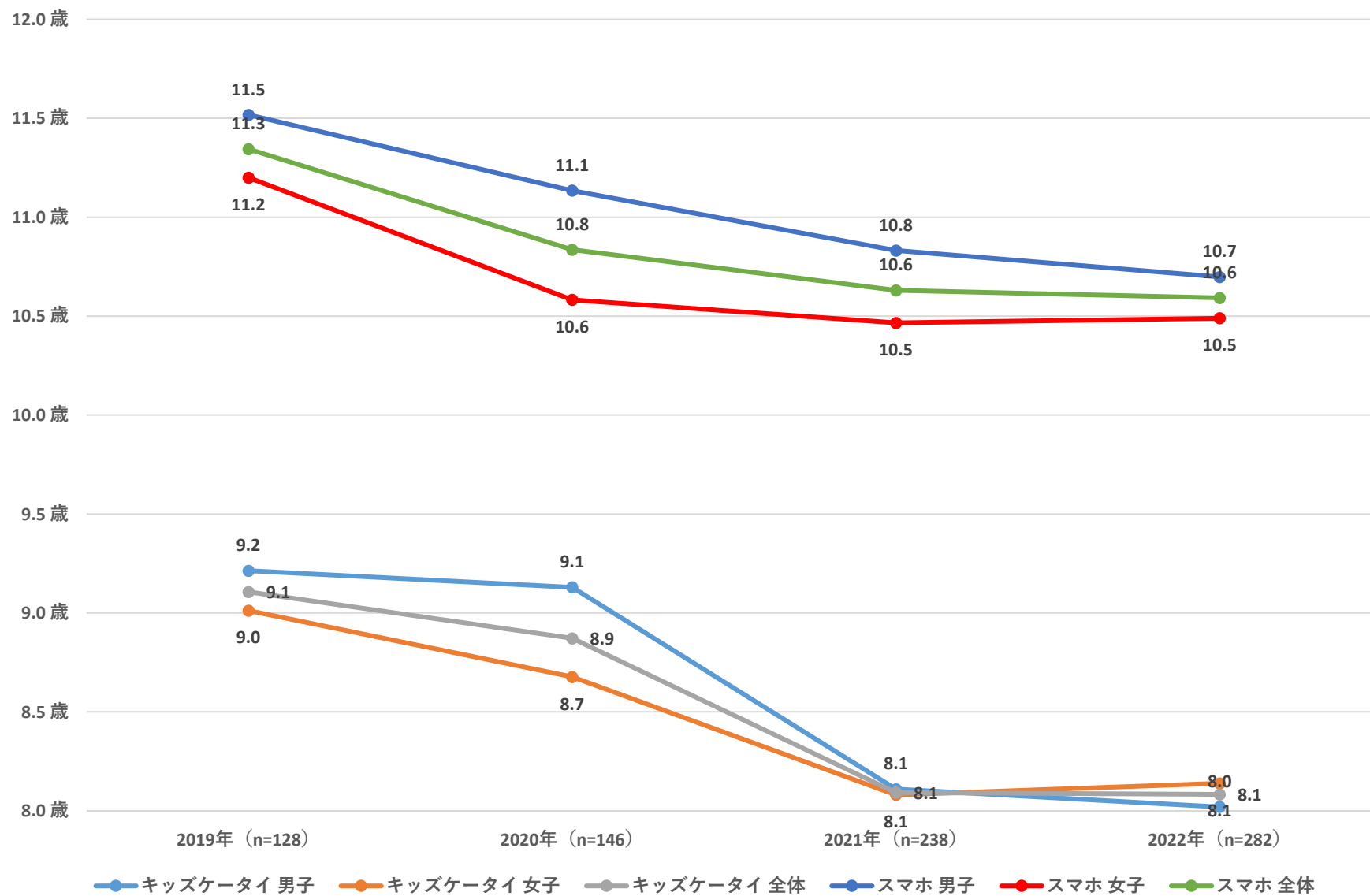
分析方法

因子分析→クラスタ分析→特性

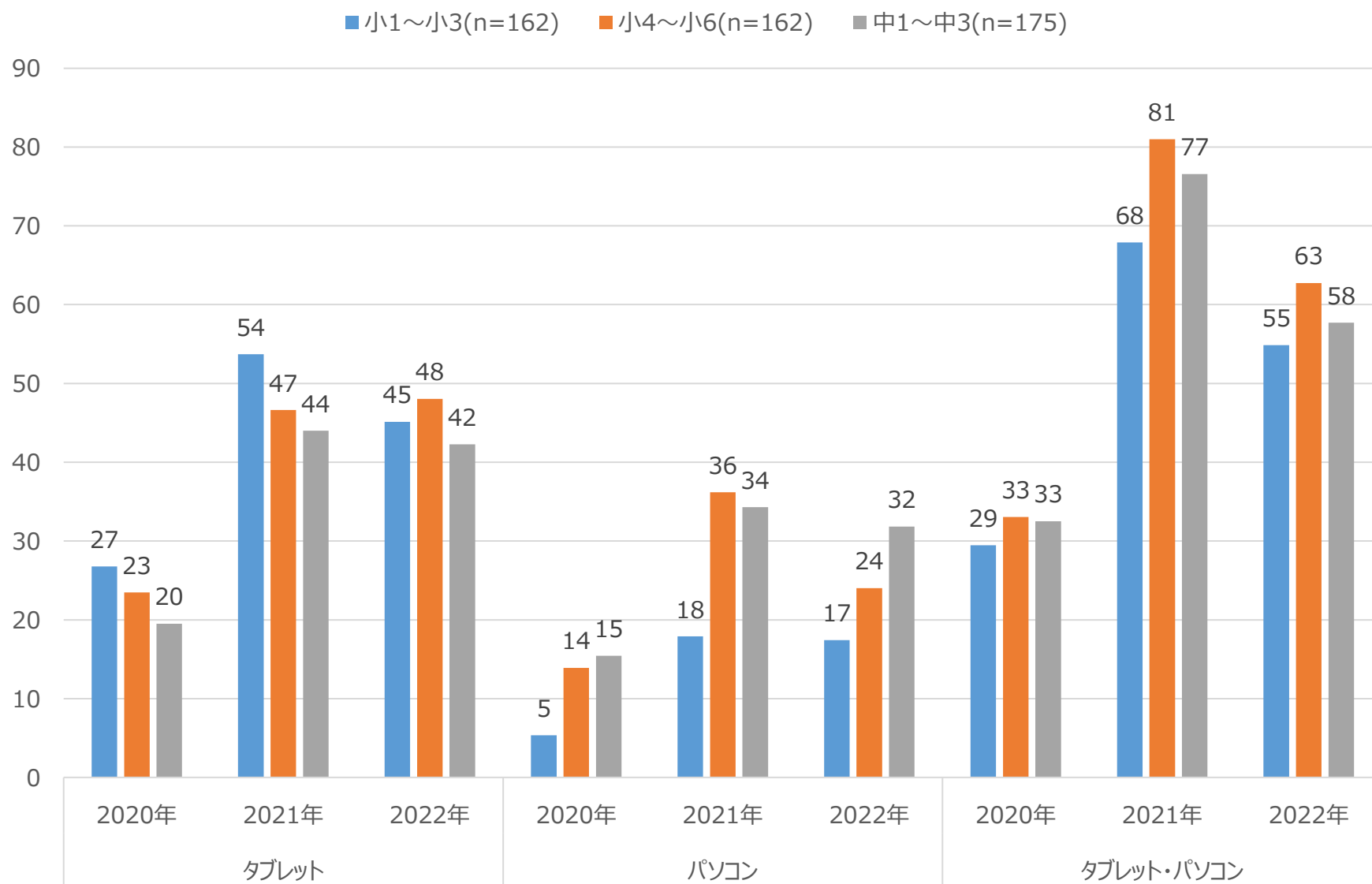
スマホ所有率 小学生は上昇傾向：低学年16% 高学年37% 中学生76%



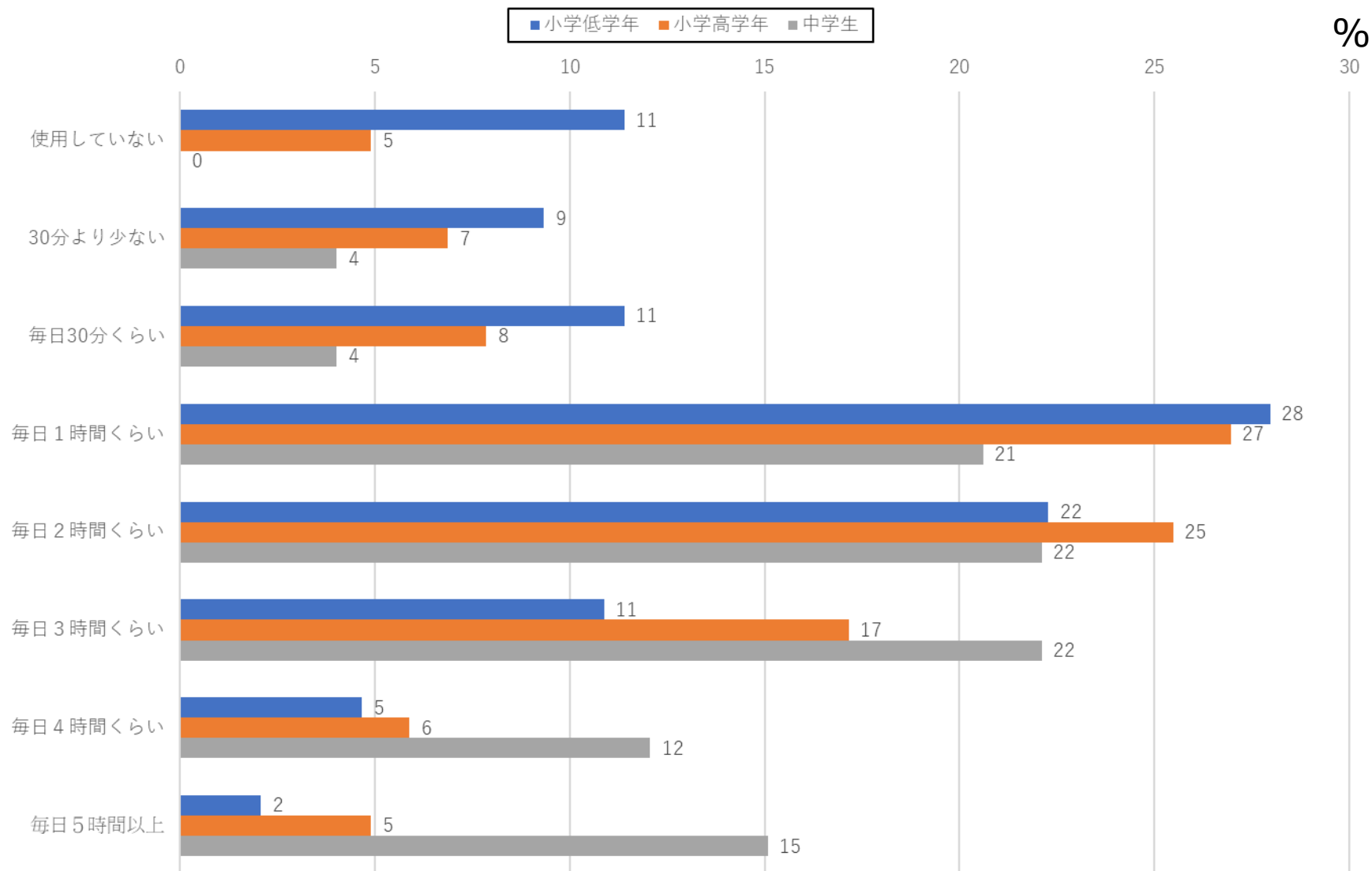
低年齢化が進み、男女差が縮まっている



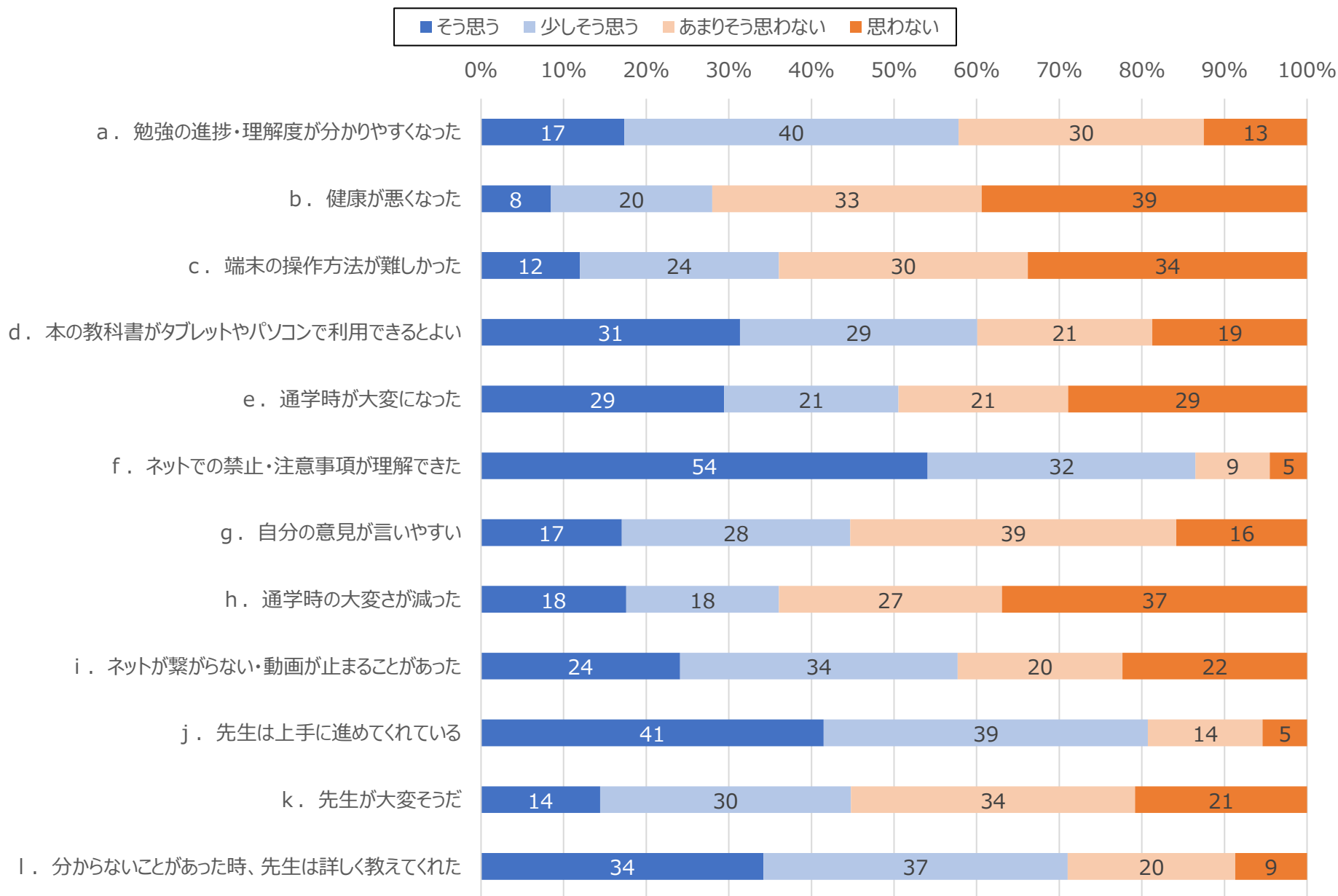
2021年に大きく利用率を上げる。



最頻値は1時間ぐらい

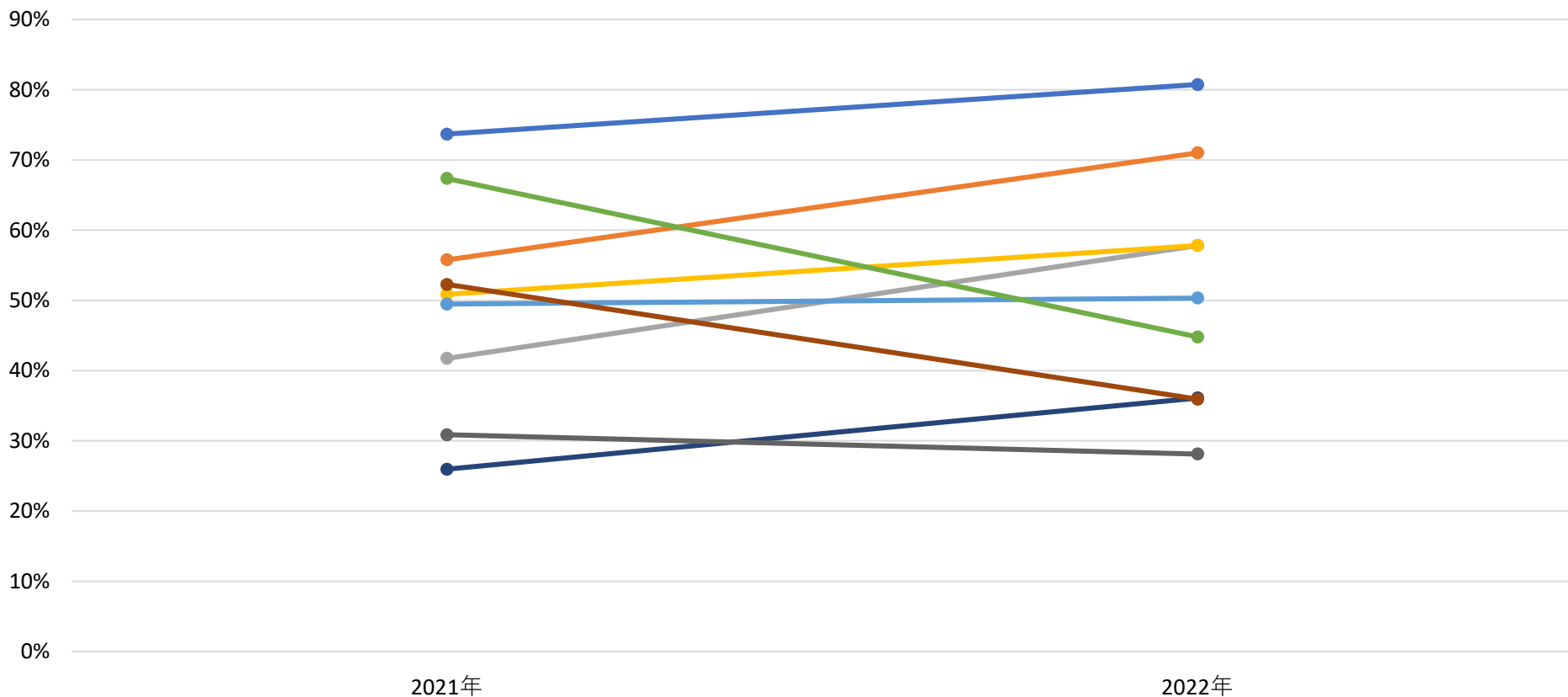


3-1.学校の授業でパソコン・タブレットを使った感想 単集計



「先生が大変そうだ」前年比▲23 「通学時の大変さが減った」前年比▲16
「進捗がわかりやすい」前年比+16 「先生が教えてくれた」前年比+15

- j. 先生は上手に進めてくれている
- l. 分からないことがあった時、先生は詳しく教えてくれた
- a. 勉強の進捗・理解度が分かりやすくなった
- i. ネットが繋がらない・動画が止まることがあった
- e. 通学時が大変になった
- k. 先生が大変そうだ
- c. 端末の操作方法が難しかった
- h. 通学時の大変さが減った
- b. 健康が悪くなった



因子分析を行い4つの因子「肯定」「先生からの支援」「不満」「先生の負担」を抽出。

	肯定	先生からの支援	不満	先生の負担
a. どこまで勉強が進んでいるのか、どこまで授業を分かっているのか、分かりやすくなった	0.62	0.26	0.00	-0.04
g. 自分の意見が言いやすい	0.57	0.15	-0.07	-0.11
d. 本の教科書がタブレットやパソコンで利用できるとよい	0.42	0.14	0.05	0.05
h. 学校に教科書やノートを置きっぱなしにでき、通学時の大変さが減った	0.42	0.00	-0.06	0.17
l. パソコンやタブレットを使った授業でわからないことがあった時、先生はくわしく教えてくれた	0.15	0.71	0.02	0.14
j. 先生はパソコンやタブレットで授業をじょうずに進めてくれている	0.24	0.69	-0.08	-0.03
f. インターネットで作ってはいけないこと、気を付けなければいけないことが理解できた	0.29	0.30	0.08	-0.11
b. 目が疲れたり、肩がこったりして、健康がわるくなった	0.01	0.00	0.54	-0.08
c. パソコンやタブレット端末の操作方法が難しかった	-0.12	0.08	0.45	0.11
e. タブレットやパソコンを持って帰る時に重く、通学時が大変になった	-0.04	-0.01	0.39	0.15
i. インターネットがうまくつながらなかったり、とちゅうで動画がとまったりした	0.17	-0.09	0.32	0.10
k. パソコンやタブレットを使った授業は先生が大変そうだ	0.04	0.04	0.20	0.53

因子抽出法: 主因子法

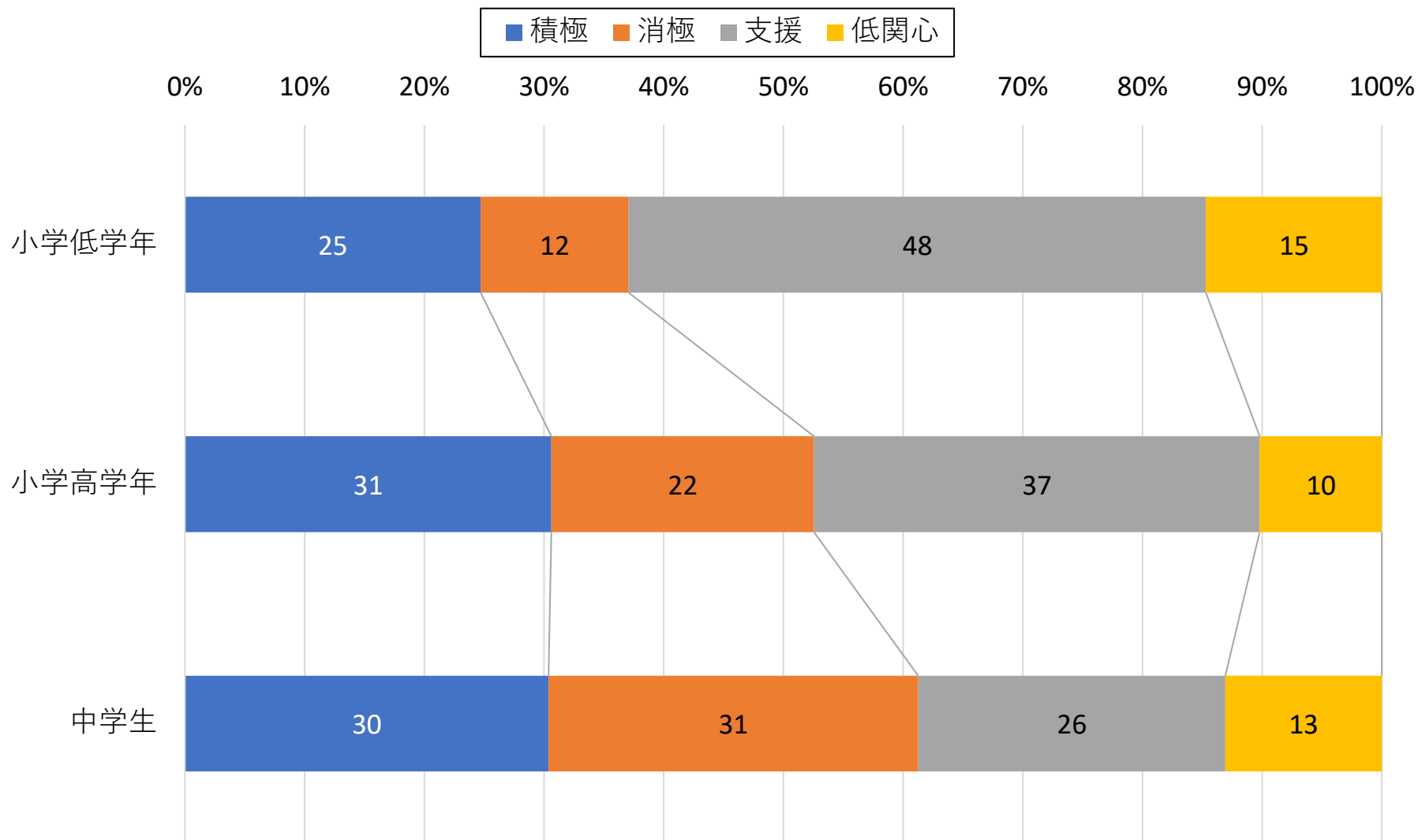
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a 6 回の反復で回転が収束しました。

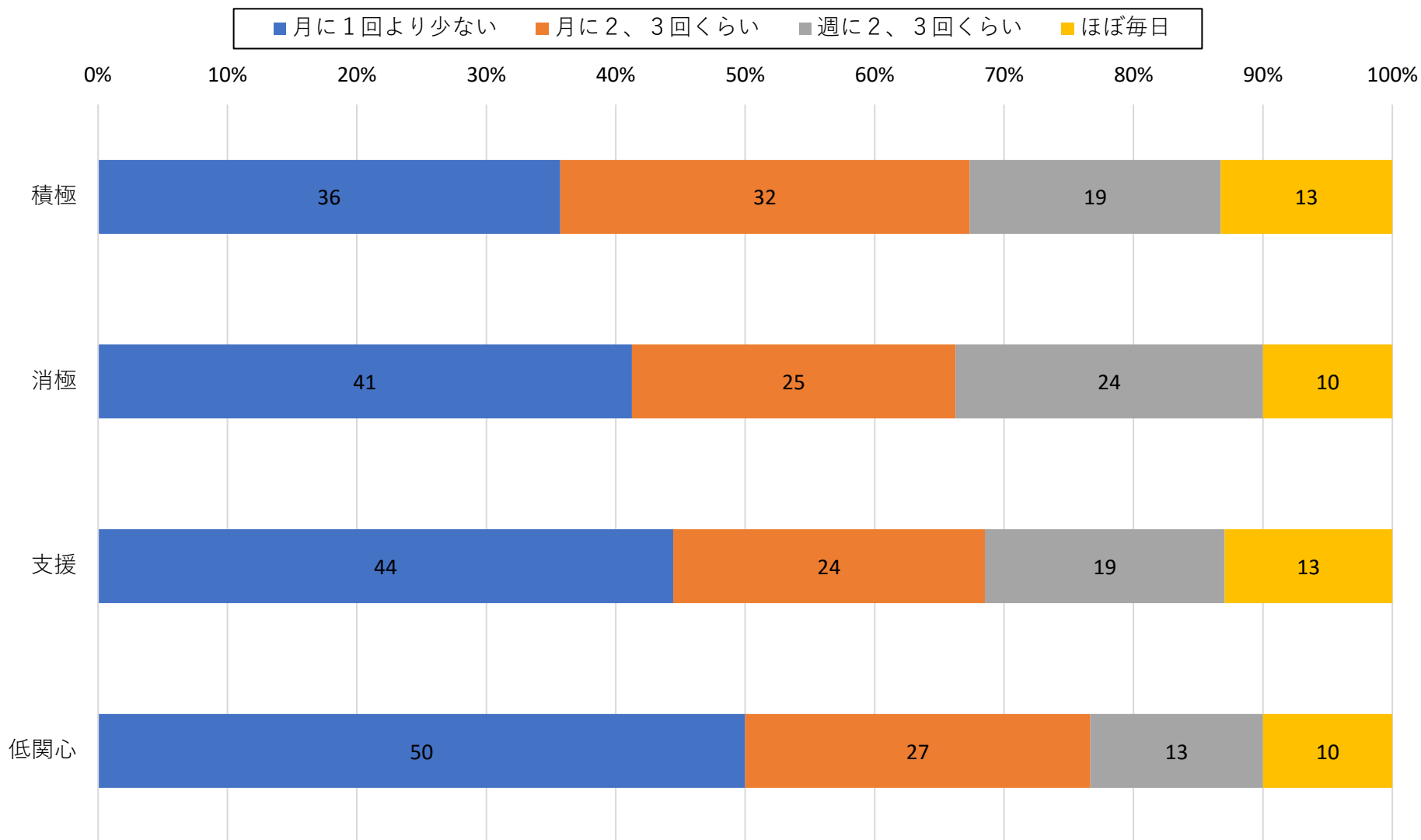
4因子より「積極派」「消極派」「支援派」「低関心派」の4つのクラスタに分ける。

	積極	消極	支援	低関心
肯定	0.65	0.25	-0.33	-0.96
先生からの支援	0.52	-0.77	0.41	-1.05
不満	-0.43	0.42	0.25	-0.50
先生の負担	-0.30	0.07	0.24	-0.14
構成比（％）	29	22	37	13

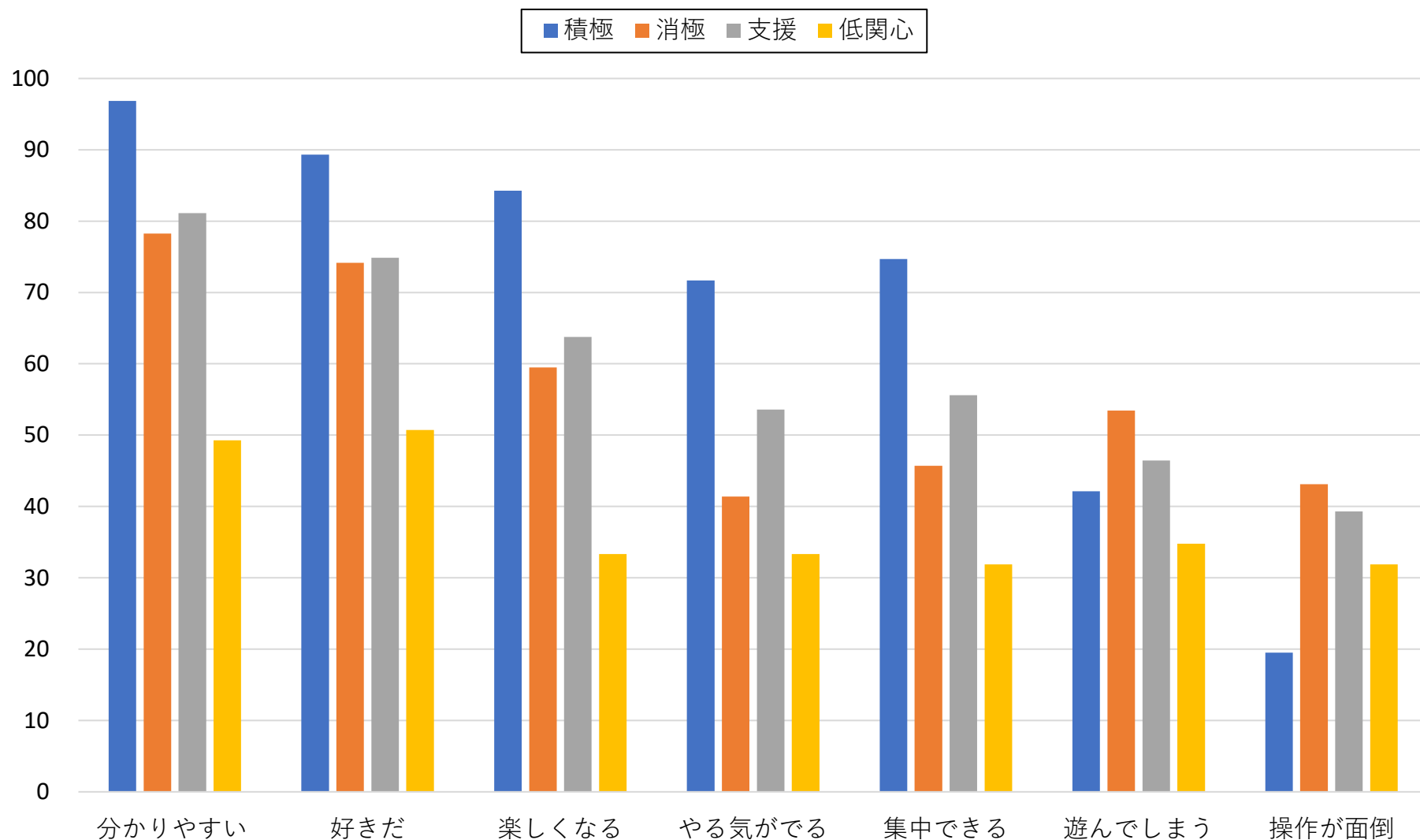
小学校低学年は「支援派」が多く、高学年・中学生になると「積極派」「消極派」の割合が増え、「支援派」の割合が少なくなる。



タブレット・パソコンを利用した授業の頻度が少ないと「低関心派」の割合が高くなる



肯定的感想 積極＞支援＞消極＞低関心
否定的感想 消極＞支援＞低関心＞積極の順で高い



- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

<経年変化:2010年~>

子どものICT

シニアのICT

5G/ニューノーマル

防災・減災のICT

スマホ利用者意識調査

情報発信

影の縮小

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2022>



(書籍・電子書籍)

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

連携

連携

メディア掲載・データ引用・意見交換会等